

金鱗湖と鴨

夜明けと共に湖面から霧が立ち上がり、山々と木々で囲まれた静かな湖畔は幻想的な風景になっていた。大分県湯布院温泉を代表する^{きんりんこ}金鱗湖の美しい冬の景観である。その昔ここ湯布院盆地には大きな湖があったようだが、今現存するのは水深約 2m、周囲約 400mの広さである。大分川の源流の一つで取り立てて特徴があるわけではないが、湖底の一部から温泉と冷泉が湧き出でている不思議な湖なのである。

近くに由布岳があることからかつては「岳本の池」と呼ばれたこともあった。その後 1884（明治 17）年に儒学者の毛利空桑が、湖の魚が夕日に映えて金色に輝いて見えたので「金鱗湖」と名付けられたとか。

岸边近くの浅瀬には小魚な群れをなして泳いでいた。冬場であっても他に比べれば水温は高く生き物には快適なのかも知れない。そして鴨が数羽。人慣れた鴨は敵対心もなく至近距離まで近づいて遊んでくれる。居合わせた数人の人と記念撮影。みんな大はしゃぎである。しかし聞いていると日本語ではない。中国からの観光客のようだ。最近中国からの観光客は至る所で見かけるようになった。その姿は裕福になった中国の象徴であるように思われる。

お尻を左右にクリクリ動かさせながら歩く鴨の姿はとてもユーモラスで、観光客の誰からも親しまれるマスコットであるようだ。しかし私にとってはかつて食べたカモ鍋の美味が脳裏をよぎって来る。すみません！

撮影 2012 年冬

